

F

A

B

レ

ポ

ー

ト

№5

2011.6.13

発行

～サポート室便り～



サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

男性も育児休業を取得しましょう！

大分大学では、次世代育成支援対策推進法に基づく第2期行動計画の中で、男性職員の育児休業の取得を推進しています。より一層充実したワークライフバランスを実現していくために男性職員も育児休業を取得し、積極的に子育てに参加しましょう！詳細については、人事課へお尋ねください。

～セミナー開催のお知らせ～

演題：『女性医療人のキャリア継続のために』
～九州大学病院きらめきプロジェクトの紹介～

講師：九州大学大学院医学研究院 保健学部門
榑木 晶子 教授

日時：平成23年7月15日（金）17時30分～18時30分

申込：女性研究者サポート室（内線6347）まで

※詳しくはホームページをご覧ください

P i c k
u p

大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

医学部 教授 井上 亮さん

『 Bill for being unconcerned 』

尖閣諸島沖での漁船衝突事件において、船長釈放という措置を講じた日本国政府の対応に評論家諸氏が非難をあげたことはまだ記憶に新しいことと思います。日本と中国はお互いの存在無しに経済が成り立たないことは周知の事実にも関わらず、いざ外交となるといざるところで齟齬が生じ、良好な国交関係が構築されていないと感じさせられ、私のような政治からは遠く離れた者にとっても歯がゆく思うことしばしばです。そんな感想をいざつづ、先日本屋である本が目にとまり、歴史に疎い自分も興味を持って読破しました。それによると、日本は極端なノン・イデオロギー（主義主張）国家であって、中国は欧米と肩を並べるイデオロギー国家であるが、日本は中国のその歴史を理解しようとせずにこれまで外交を行ってきたツケが回ってきていると述べられています。日中関係という個々では解決できないような例を挙げてまいりましたが、これは女性研究者支援にとっても大切な視点と考えられます。今後、国策として女性研究者を増加させる必要性において、これまでの日本のいわゆる男性社会（私の所属している組織は極端な女性社会で例外ですが）を覆す職場環境を整える必要があると思われます。女性研究者ひいては女性達のイデオロギーとまでは言わないまでも、職場における女性の本質（本音）を考えてみるのもいいかもしれません。別のある書によると、女性は、職務満足感も高いが、ストレスも多く感じている。また、仕事上での多くの友人や仲間もいるが、一緒にはやっつけられない者も多くいると報告し、女性は、男性よりも大きな社会的ネットワークで働いているようであると述べています。管理職にある女性の場合、詳細は割愛しますが、さらに諸々のファクターがストレスの原因になると述べています。備えあれば憂いなし。同じ目標に向かって男女共同参画事業・研究を効率よく推進するために、時にはお互いの特性・本質を考える時間も必要ではないでしょうか。さもないと、将来、女性研究者支援室が“女性研究者対策室”という想定外なものに変貌するというツケを払われるかも…。